

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年 6月7日

岐 阜 県 知 事 殿

提出者

住 所 岐阜県関市稲河町5番8号

氏 名 生駒鍍金工業株式会社

代表取締役 生駒 秀之

電話番号 0575-22-7106

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	生駒鍍金工業株式会社
事業場の所在地	岐阜県関市稲河町5番8号
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	2464:電気めっき業
②事業の規模	売上 25億
③従業員数	80人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	電気めっき業 全部門 廃プラスチック⇒中間処理業者により再生リサイクル・破碎・焼却 亜鉛めっき:汚泥⇒中間処理業者に委託して脱水後、コンクリート固化 廃油⇒中間処理業者により中和し資源化 ニッケルめっき:廃ニッケル⇒中間処理業者により資源化

(日本工業規格 A列4番)



## (第2面)

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

## (管理体制図)

経営者（廃棄物処理総括責任者）

|

環境管理責任者（産業廃棄物管理責任者・特別管理産業廃棄物管理責任者）

|

総務部門（産業廃棄物管理者）

|

営業部門

|

製造部門（産業廃棄物処理施設技術管理者）

|

品質保証部門

環境会議・ISO14001の実践  
産業廃棄物の削減

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	2282 t	t
	（これまでに実施した取組） ・めっき製品不良による、再めっきの削減（製品品質の向上） ・使用薬剤の適正化 ・建浴周期の長期化		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	2214 t	t
	（今後実施する予定の取組） ・製品品質の向上による環境負荷の低減 ・使用薬剤の適正化の継続 ・建浴周期の長期化の継続		

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・廃プラスチック、金属屑を 分別保管し金属屑はリサイクル
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・現状の継続

## (第3面)

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 自らの再生利用はなし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 自らの中間処理は、実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 自ら行う埋立て処分は実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全処理委託量	2282 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	2282 t	t
	再生利用業者への処理委託量	— t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	t
	(これまでに実施した取組) 使用産廃業者の許可期限の管理徹底。		

## (第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全処理委託量	2214 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	2214 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	— t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	t
	(今後実施する予定の取組) 産廃業者の許可期限管理の徹底継続。		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

## 令和5年度の産業廃棄物発生量（実績）及び令和6年度の目標

1/2

(単位：t/年)

項 目	産業廃棄物の種類 (名称)	汚泥	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック	小計
	令和5年度の産業廃棄物発生量（実績）	1 4 7 4	2 5 6	9	1 5 9	1 8 9 8
①	産業廃棄物発生量	1 4 3 0	2 4 8	8	1 5 4	1 8 4 0
②	自己直接再生利用量					
③	自己直接埋立処分又は海洋投入量					
④	自己中間処理量					
⑤	自己中間処理残さ量					
⑥	自己中間処理後再生利用量					
⑦	自己中間処理後自己埋立処分 又は海洋投入量					
⑧	直接委託及び自己中間処理後委託 処分量	1 4 3 0	2 4 8	8	1 5 4	1 8 4 0
k	再生利用量					
l	中間処理による減量					
m	最終処分量	1 4 3 0	2 4 8	8	1 5 4	1 8 4 0

令和6年度の目標

(注) 1 特別管理産業廃棄物及び一般廃棄物は記入しないでください。

2 記入欄が不足する場合は、コピーしてお使いください。

3 単位を間違えないよう注意してください。

(単位：t / 年)

項 目	産業廃棄物の種類 (名称)	廃油		合計
	令和5年度の産業廃棄物発生量（実績）	3 8 4		2 2 8 2
①	産業廃棄物発生量	3 7 2		2 2 1 2
②	自己直接再生利用量			
③	自己直接埋立処分又は海洋投入量			
④	自己中間処理量			
⑤	自己中間処理残さ量			
⑥	自己中間処理後再生利用量			
⑦	自己中間処理後自己埋立処分 又は海洋投入量			
⑧	直接委託及び自己中間処理後委託 処分量	3 7 2		2 2 1 2
k	再生利用量			
l	中間処理による減量			
m	最終処分量	3 7 2		2 2 1 2

令和6年度の目標

- (注) 1 特別管理産業廃棄物及び一般廃棄物は記入しないでください。  
2 記入欄が不足する場合は、コピーしてお使いください。  
3 単位を間違えないよう注意してください。